

報道関係者 各位

2021年11月17日
 国立成育医療研究センター

「コロナ×こどもアンケート」第6回調査報告
学校に行きたくないこどもが38%
～オンライン授業・ワクチン接種に関する賛否分かれる～

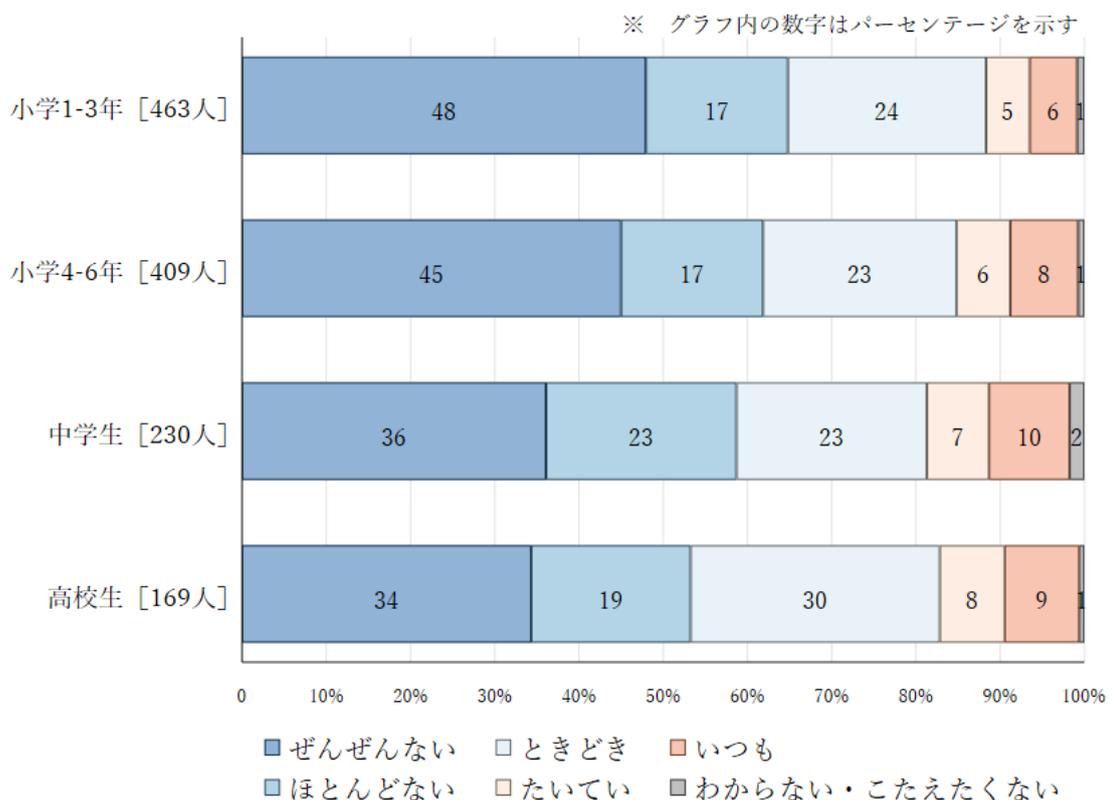
国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵 2-10-1 理事長：五十嵐隆）の社会医学研究部・こころの診療部を中心としたグループ「コロナ×こども本部」は、2021年9月に実施した「コロナ×こどもアンケート」第6回調査（回答：こども・保護者合計 7,078 名）の全体報告をまとめました。第6回調査は、全国的に感染者数が多くなった第5波を受けて緊急で実施し、学校生活や新型コロナワクチンなどに関する捉え方に焦点をあてて調査しています。

その結果、「学校に行きたくない」と感じているこどもが38%いることが分かりました。今回の調査ではその理由についても尋ねており、対人関係の悩み、感染への恐怖、精神的な不調など様々です。また、日常的な運動機会がないこどもは過半数にのぼりました。オンライン授業・ワクチン接種に関しては賛否が分かれ、どちらも示唆に富んだ意見が多く寄せられています。

第6回調査の報告書全文は、国立成育医療研究センター「コロナ×こども本部」のページで公開しています。

https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/finreport_06.html

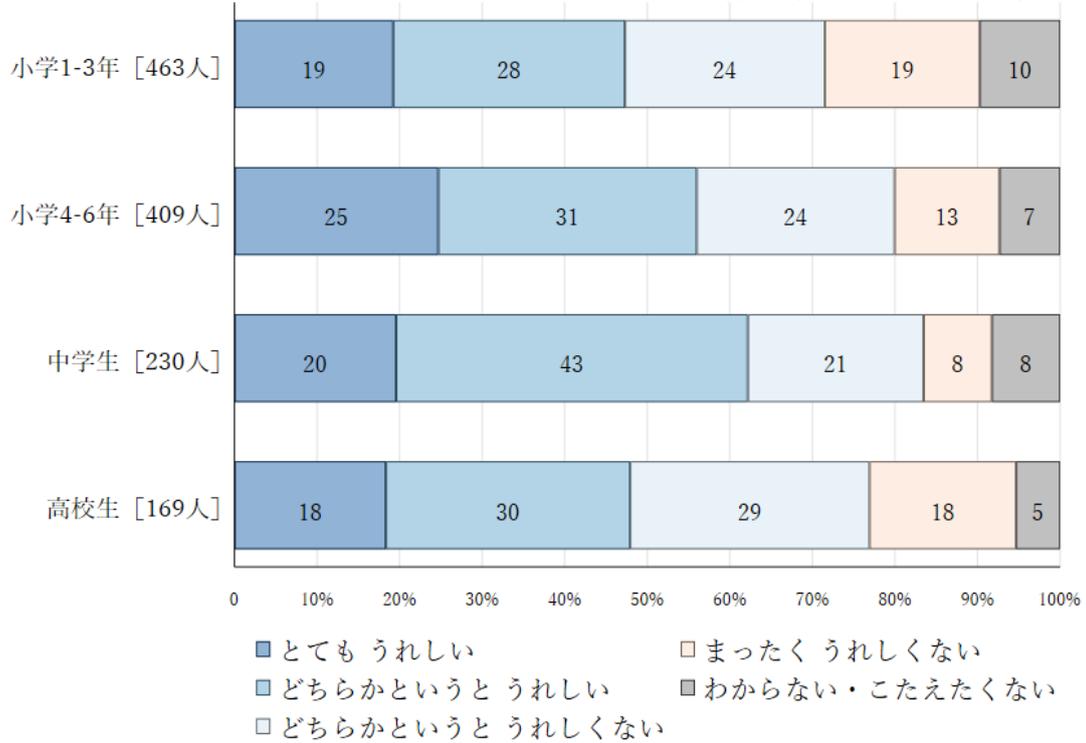
学校に行きたくないと思った頻度（直近1週間）



【第6回アンケート調査報告書より抜粋（こどもの回答）】

オンライン授業に対する気持ち

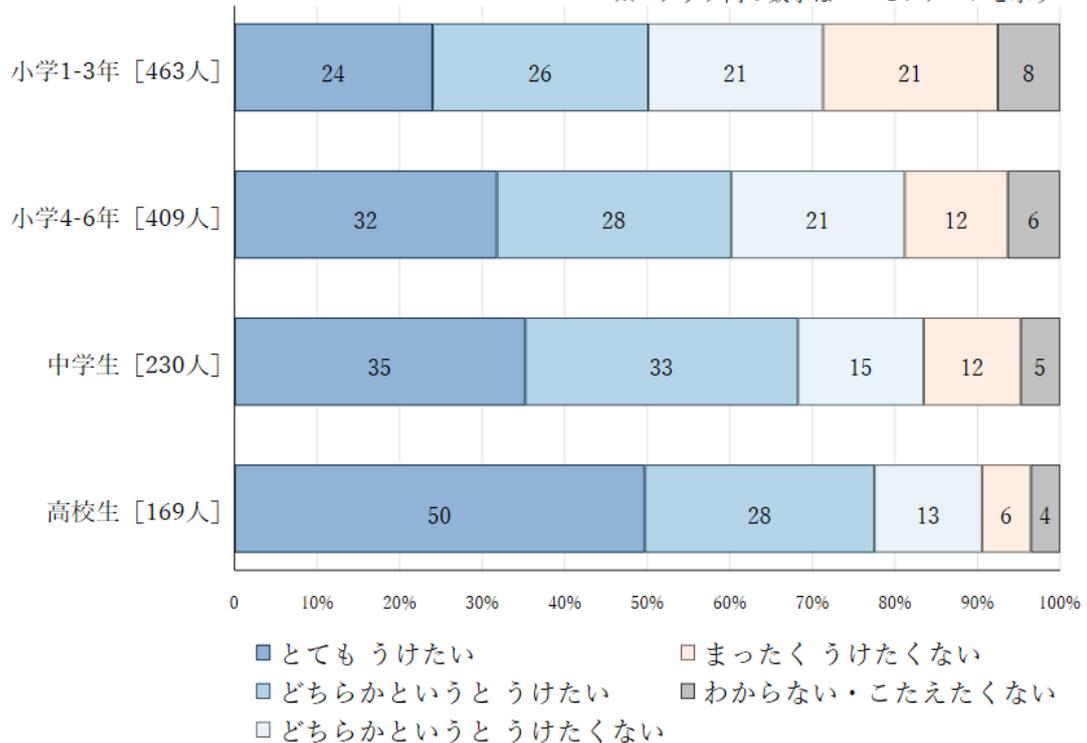
※ グラフ内の数字はパーセンテージを示す



【第6回アンケート調査報告書より抜粋（こどもの回答）】

ワクチン接種に対する気持ち

※ グラフ内の数字はパーセンテージを示す



【第6回アンケート調査報告書より抜粋（こどもの回答）】

【プレスリリースのポイント】

- コロナ×こどもアンケート第6回調査には、全国のこども 1,271 名、保護者 5,807 名、計 7,078 名の方々にご協力いただきました。
- 回答したこどもの 38%が、直近 1 週間で学校に行きたくないと思ったことが（いつも・たいてい・ときどき）あると回答しました。
- 回答したこどもの 10%が、直近 1 週間で運動（からだを動かす遊び）を全くしなかったと回答しました。何回かした程度であるこどもは 47%でした。
- オンライン授業について、（とても・どちらかというと）嬉しいと回答したこどもは 53%、（どちらかというと・まったく）嬉しくないと回答したこどもは 39%でした。
- オンライン授業はこどもの感染リスクが少ないので安心だと回答した保護者は 70%でした。一方、こどもが友だちと会えないのが心配・かわいそうだと回答した保護者も 70%でした。
- 新型コロナウイルスワクチンを接種できるようになったらすぐに受けてほしいかという質問に対して、小学生のこどもの 55%、中学生以上のこどもの 72%が（とても・どちらかというと）受けてほしいと回答しました。（まったく・どちらかというと）受けてくれないと回答したのは、小学生のこどもで 38%、中学生以上のこどもで 24%でした。
- 本調査で毎回聞いているところの状態については、何らかのストレス反応を抱えているこどもは全体の 70%でした。

【背景】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにより、こどもたちの生活も大きく変わりました。おとなと比べて声をあげることが難しいこどもたちが、いまどのような状況に置かれているのか、おとなたちはこどもたちのために何ができるのかを明らかにし、現場に届けるとともに、社会に問いかけるための調査です。

第 1 回の調査では主に流行初期の緊急事態宣言中のこどもたちの生活や健康の様子を、第 2 回の調査では学校や保育園が再開されてからのこどもたちの様子や新型コロナに関する意識（スティグマ）を、第 3 回調査では生活の変化やこどもの権利を、第 4 回ではうつ症状を中心としたところの状態を、第 5 回調査では 1 年をふり返っての様々な影響などに着目して調査を行いました。

今回の調査は、全国的に感染者数が多くなった第 5 波を受けて緊急で実施し、学校生活や新型コロナワクチンなどに関する捉え方に特に焦点をあてて調査を行いました。質問内容の検討には、昨年実施した[コロナ×こども会議](#)でこどもたちから教えていただいたこともヒントにしました。

【今後の展望】

第 6 回調査実施後、幸い全国的に感染者数が激減しています。しかし、こどもたちの生活や心身への影響は、今後もまだしばらく続く可能性が高いと考えられます。本調査の結果をぜひ多くの方に知っていただき、こどもたちの状況を改善していくためのきっかけ・ヒントにしていだけましたら幸いです。

【参考資料】

<調査の特徴>

- 新型コロナウイルス感染症流行期における、こどもたちと保護者のストレスや不安、生活環境の変化、それに伴う心身の健康状態の現状を明らかにし、問題の早期発見や予防・対策に役立てることを目的としています。
- こども自身の声を聞くことで、こどもたちが感じていること、こどもが抱える問題、その改善点を社会に発信していきます。また、こどもの心身の健康には、保護者の心身の健康が密接に関係しているため、こども・保護者双方の声を聞くことを重視して、調査を行っています。
- 調査に協力してくださるお子さまや保護者の方ご自身が、自分や家族の心身の問題を早期発見することに繋げていただけるようにという点にも留意して調査を設計しています。
- 今後も社会情勢などを見ながら必要に応じて実施し、その都度、調査結果を公開していくことを予定しています。
- LINE 公式アカウント「コロナ×こども本部」では、調査協力依頼や結果のお知らせのほかに、こどもたちやそのご家族に今日から役立てていただける情報を、専門家がセレクトして随時発信しています。

<調査の方法>

- 対象は、①小学生から高校生（相当）までのこども、および、② 高校生（相当）以下のこどもがいる保護者、です。
- 当センターのホームページ内に本調査ホームページを開設し、調査目的・説明などを掲載するとともに質問項目のフォームを作成しています。回答は匿名で、説明・同意（代諾を含む）・回答はすべてオンライン上で行われます。
- 調査への参加呼びかけは、若年層を中心に利用者割合が高いLINE や SNS (Facebook、Twitter) を積極的に活用して行っています。報告書記載の協力団体にも参加呼びかけにご協力いただきました。また、メディアにも紹介いただき、さまざまな媒体を通じて、多くの地域、多様な社会背景をもつ幅広い参加者から回答を得ることで、実態を正しく把握したいと考えています。調査の特性上、回答率は計算できません。
- 第6回調査は、2021年9月13日～9月30日に実施しました。LINE「コロナ×こども本部」、Facebook（国立成育医療研究センター 広報アカウント）とtwitter（国立成育医療研究センター 広報アカウント）のほか、協力団体、メディアを通して参加を呼びかけました。
- 第6回の調査実施期間は、新型コロナウイルスの感染流行第5波の最中、感染者数が多くなっていた時期です。この時期のこどもたちの生活と健康の様子、気持ちや意見などを、基本属性とあわせて尋ねました。回答は、こどものみ、保護者のみ、その両方、から選べる形式にしました。
- 第6回調査は、公益財団法人小児医学研究振興財団 令和2年度小児の社会学的研究（疫学・統計含む）助成金「新型コロナ流行に伴うこどもの精神的健康に関する全国調査」および科学技術振興機構 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による青少年の生活および健康への影響およびその関連因子に関する日欧比較研究」の助成を得て実施されました。

<こどもが無料相談できる場所>

国立成育医療研究センターコロナ×こども本部では、こどもが無料で相談できる場所や相談先を探すサイト（いずれも一部）を、リストにまとめて公開しています。

https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/CxC_ConsultationList_20200615.pdf

【問い合わせ先】

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
企画戦略局 広報企画室 村上・近藤
電話：03-3416-0181（代表） e-mail:koho@ncchd.go.jp